

日本賢人会議所

第7号



会員同士で交流・親睦も重ね、お互いに知恵を出し合い、助け合える環境を作って参りましょう

橋本会長へのインタビュー 「ウイズ・コロナ、渋沢栄一、次世代のために」

Q：先ずは、会員の皆様に一言お願ひいたします。

A：昨年初めからの新型コロナウイルス感染症の蔓延が長期化し、当会としても活動の休止を余儀なくされていることは残念ですが、会員の皆様がご不自由ながら無事にお過ごしと伺い、ほっと胸をなでおろし、嬉しく思っているところでございます。どうぞ、これからもくれぐれもお大事にお過ごしくださいませ。

Q：まさに蔓延が長期化していますが、これまでと行動様式は変わりましたか？

A：賢人会議所を始め関係する団体などの活動中止や延期は数多くあり、その分自由な時間が

増えたように思います。ただ、自ら動くことに関するあまり変わらず、よく寝てよく食べ免疫力に気をつけながら、ほぼやりたいようにしています。

Q：学生時代テニス部キャプテンで、関東大会優勝もされていますよね。また、国際なぎなた連盟の会長も務めるスポーツウーマンと存じています。



A：テニスは瞬発力が必要で転んでしまったこともあります、今はしていません。昔できたことができないのも悔しいですし、人に迷惑をかけてもいけませんからね。薙刀のお稽古は月に一度なので、進歩はないのですが、長く続けることを心がけています。ゴルフは好きで、車の運転も好きなので、この状況でも自らよく出かけま



す。いずれ、どちらかが出来なくてなつたら、もう片方も諦めるのかなと思っています。

Q：行動変容が言われ、世の中のいろいろな様式が変わろうとしていますが、新しく取り組んだことはありますか？

A：この時代だからではないのですが、年の初めに新たなことにチャレンジしようと2年前からクラリネットの練習を始めました。先生曰く2年続ければ数曲吹けるようになるとのことで、なんとか吹けるようになりましたが、良い音を出すのは難しいですね。高校野球応援のプラスバンドなどを見て頑張ろうと思うのですが、腱鞘炎になってしまい、今は練習をお休みしています。もともとクロスワードパズルが好きなので、これからは様々な「脳トレ」にチャレンジしてみようと思っています。

Q：NHK大河ドラマでも新一万円札でも話題の渋沢栄一さんの末裔と伺っていますが、その

教えなど何か受け継いでいるものがありますか。

A：全くないのですね。栄一さんの二女琴子と結婚した阪谷芳郎は東京市長なども務めた曾祖父さんなので、芳郎さんのことは母から聞くことはありました。栄一さんは今回の大河ドラマや新一万円札で改めて意識している感じです。

Q：渋沢栄一さんの活躍をドラマで見ていかがですか？

A：主人公の吉沢亮さんは、ドラマとは言え美男でカッコ良すぎるねと家族とも話しています。栄一さんの末裔と言うより、一人のファンですね。それから登場する俳優さんたちは皆さん素敵ですが、中でも草彅剛さんの徳川慶喜公の演技が素晴らしいと話しています。日本の近代化など改めて学ぶことも多く、これからのドラマ展開が楽しみです。

Q：日本賢人会議所の役割やこれからについて、会長としての思いなど伺えますか。

A：基本的にはみんなが元気で集まって、自由に意見を出し合い、実際にできるかできないかは別として次の世代のために何をすべきかなど話し合うことが大切だと思います。それが第一歩なので、コロナ禍の制約はありますが、まずは、会員同士で交流・親睦も重ね、お互いに知恵を出し合い、助け合える環境を作つて参りましょう。あまり大望を抱いて頑張っても、無理をしては、皆さんついていけないでしょうから、自らのできる範囲で、それも楽しく取り組めることが大切だと思っています。宜しくお願い申し上げます。最後に改めて、会員の皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

聞き手：小林正博

楽しい“働き方改革”プロジェクトの仲間をお待ちしています

理事長 小早川明徳

政府は、少子高齢社会の到来の中、“一億総活躍社会の実現”を目指し「働き方改革」を提唱しました。

一億総活躍社会とは、

- 少子高齢化という日本の人口構造的な問題について、正面から取り組むことで50年後も人口1億人を維持したい。
- 一人ひとりの日本人、誰もが家庭で、職場で、地域で生きがいを持って充実した生活を送れることを目指したい。

その目的を達成するため、次の3つを提唱しました。

- 1 ;長時間労働の解消
- 2 ;非正規社員と正社員との格差是正
- 3 ;高齢者の就労促進

考えてみましょう。

現在、世界の創業100年を超える長寿企業ランキングを見ると、日本は3万3千社と世界の40%を超え、2位のアメリカの1万9千社を大きく引き離しています。ちなみに3位はスエーデン1万4千社、4位はドイツの5千社、5位はイギリスの2千社弱となっています。

これらの結果は、我が国で悠久の時を経て培われた民族性、所謂、自然観や歴史観あるいは死生観を“生き方、働き方”にまで色濃く反映し、精神的経営文化へ昇華させた影響といえましょう。こんな長寿企業が日本の“経営の歴史の証”として現存している事実を踏まえて日本型経営と働き方を考えていきたいと思います。

この日本型の経営の特徴、経営者と社員、加えて、家族との関係性などを、これらの日本人が培ってきた“気風”や、その中で生じた“修行、修練”を常なるものととらえて、敢えて「道（みち）文化」と定義したいと思います。

そこで、皆様とともに、この現代の“働き方改革”を、我が国の「道文化」に照らして、「我が国の働き方」

がいかにあるべきかを問い合わせていき、楽しい会話を重ね“検証の旅”をしてみたいと考えました。皆様のご参加をよろしくお願ひします。



地球環境問題プロジェクトへの呼びかけ

理事長 小早川明徳

私たち人間の生命(いのち)は、その起源を地球誕生と同じくし、その地球創造のエネルギーによって、今、尚、生かされています。それらの“ヒト”は、とりもなおさず地球という“生命体誕生”と同じ原理によって生まれ、その生々の法則と共に、今を生かされ続けているのです。

つまり、「人間」は自然界の法則や摂理と一体にして生存しているという証左であります。この人間生命の根源たる自然、その自然の法則を蝕む環境汚染が重層的な複合汚染を招来し、自然の持つ循環的營みを破壊し続けているのです。

自然は万物を生み出す循環性の中に営まれています。その循環性が、地球汚染により断たれようとしています。それは、とりもなおさず「環境破壊」を意味するのです。その環境破壊は、地球の生命力を喪失(減退)させていきます。その行き着くところは「地球崩壊」なのです。

かけがえのない地球の生命、かけがえのない人間の生命、それらを支える“かけがえのない万物の生命”、私たちはその素晴らしい「生命」を守るために、いま起ち上がりたいと思います。明日の子どもたちのために、明日の日本のために、そして、明日の地球のために日本賢人会議所は行動します。皆様ご一緒に如何ですか。

第6波は来ない！？

副会長 福生吉裕

日本未病総合研究所・博慈会老人病研究所長

魅せられた不思議の塔

もう15年以上前になるが、不思議なモノを見た。それは道路の真ん中に荘厳として立ちすくむ塔である。バロック様式の彫刻が美しく贅沢に克明に彫られいかにも一見すると何かの有名な芸術作品と見間違えそうであった。多額の費用と年月を掛けられ造られたモノと一見で分かる。その塔はウイーンの中心、ステファン大聖堂の近くにあった。通りすがりの人に聞くとそれがグラーベンのペスト終息記念塔であるという。14世紀末よりヨーロッパの人々を恐怖のどん底に追いやったペスト。死者4000万人とも5000万人とも言われる。この塔は14年間かかりマリアテレジアの祖父、皇帝レオポルド1世によって造られたと記されている。

日本でのペスト発生は北里柴三郎の懸命な努力により千人ばかりの犠牲者で済んだ。医学書によりその名前と疫学的破壊力の怖さは知識としては知っていたが、昔のヨーロッパの疫病としての記憶しか無かった。



その終息を記念してこれほどまでの贅沢な建造物を造ったのは時の権力者の権力、財力の誇示であろうと思つてもいた。そしてしばらくしてこの塔の記憶は私から静かに去つていっていったのであつた。

人類の文化という急所に命中したウイルス

さて、時は2020年～2021年、言わずとしれたCovid-19に世界は蹂躪され震撼させられた。ジョンホプキンス大学の発表によると世界での感染者数

2.3億人、死者480万人を超えた（2021年10月5日現在）。数の上でもペストと遜色はないと言える。医療ばかりでなく政治も経済も振り回され人類社会に甚大な禍根を残す被害をもたらしていることは言を待たない。

嘗々と積み重ねた人類の文化、繁栄がバベルの塔の如く一瞬にしてこの0.1ミクロンの怪物に粉々に破壊された感じである。人々が楽しく交流するという文化がターゲットにされ、このウイルスはまさしく命中し人間社会の瓦解を誘発した。違いは執行者が神かウイルスかの相違と感じるのは私だけでは無いであろう。

ある総理の退陣と共に生じた奇妙な減少？

さて、コロナに関しては既に莫大な報告、調査、研究が成されているので、ここでは述べず、あえて最近の奇妙な現象について述べておきたい。それは日本においてあるあるがあるが10月に入り東京では感染者数が突然200名を下回るようになった。ある首相の引退と同時期に急激に感染者数が減少したことである。なぜであろうか。奇妙な相関が見えるがそれはさておき、この減少の急激さに疑問を呈される方も多いかと思う。その原因として考えられるのはワクチン摂取率が全国的に62%を超えたこと、人流が若干抑制されたこと、そしてマスク、手指消毒、三密の生活習慣が真剣に守られるようになったのではないか。これらがようやく総合的に効果を出し始めたことなどが考えられているが、私はここでは敢えて異論を述べさせていただくことにする。もちろんある首相の退陣が効果をなしこロナが減少したことではない事だけは、彼の名誉のために強調しておく。

“エラーカタストロフの限界”を超えたコロナウィルス

ではなぜコロナ感染者の急激な減少が生じたのだろうか。それはウイルス自体に自壊が生じたのであろうと推測するのが妥当である。これはエラーカタストロフ（ミスによる破局）と言う現象である。ノーベル科学賞を受賞した



Eigenが1971年に予言した理論よりヒントを得ている。主な変異だけでも元祖武漢株からイギリス（アルファ株）南アフリカ（ベータ株）ブラジル（ガンマ株）インド（デルタ株）と呼ばれる多種な変異が短時間に生じた。他のウイルスではこのような短時間における変異はめったに起こらない。これらの変異はなぜコロナに起こるのであろうか。それはコロナウイルスの構造に由来する。一本鎖RNAが3万塩基もあり、インフルエンザなどに比べ3倍も大きいため、複製中にエラーが生じやすいことである。そして本来ならこのエラーを見つけ修正する酵素nsp14が働き変異を抑制するのであるが、そもそもコロナウイルスの遺伝子サイズが大きいのでこのnsp14の修正作用が上手く掛からず、変異率は15倍に増加する。すると、返ってウイルスの増殖が困難になり自壊となるのである。現在の急激な感染者数の減少は、このウイルス自体による自己自壊が生じていると考えられる。この説が正しいとなると、コロナウイルスの終息への道のりは近い。

政府および国立感染症研究所などの研究機関さらに多くのメディアでは、冬に向けて第6波が来することをしきりに報道している。しかし私はあえてウイルスの自爆説に軍配を上げておきたい。第6波は来ない。

コロナ終息記念塔の設立を願う

1年半以上にも及び人類を奈落の底に追い込んだ極悪非道のコロナウイルス。そしてマスク帝国の支配下に陥った世界の人々。もう心配することはない。敵は自滅スパイラルに陥ったのである。そしてその終息の日は近い、と言わせてもらいたい。

ここに来て、あれだけ莊厳なペスト終息記念塔を造った中世ヨーロッパの人々の気持ちが痛いように理解出来たのである。ペストからの解放。さぞかしうれしかったことであろう。

今、この段階で明言するのは少々勇気もいり、早計かも知れないが、あえて言いたい。コロナからの解放は近い。そして中世ヨーロッパの人々が歓喜した感動を時空を超えて味わおうではないか。日本賢人会議所でコロナ終息記念塔を世界に先んじて造ろうではないでしょうか。クラウド・ファンディングという方法もあります。

総裁選と総選挙で問われる政治の在り方

理事 泉 宏
政治ジャーナリスト

コロナ禍の中での政局秋の陣はすでに佳境に入っている。先行する自民総裁選で誰が勝って新首相となるのか。そして、その後に実施される総選挙で、有権者はどんな審判を下すのか。戦後最大の国難にすくむ日本国民に、未来への希望を与えられるような結果でなければ、政治不信は募り、日本沈没が現実となりかねない。

菅義偉首相の迷走の果ての唐突な退陣表明以来、新聞・テレビは総裁選狂騒曲を面白おかしく伝えるが、その内容は表層ばかりで、本来問われるべき自民党の本質には一向に踏み込まない。「フルスペック」と称する党员・党友も含めた総裁選も所詮は自民党内のコップの中の争いだ。ただ、現制度では新総裁はそのまま新首相となり、コロナ対策や経済再生策、さらには流動化が際立つ世界情勢への対応の指揮官となる。

さらに、新首相は史上初めて衆院任期を超えた11月総選挙で、改めて信を問うことになる。自公両党で過半数を維持できれば、その後11月下旬までの特別国会で政権の続投が決まる。ただ、それまでの政治空白は約2カ月にも及ぶ。

歴史を紐解けば過去のパンデミックは世界の政治を一変させてきた。今回の総裁選・総選挙で問われるのは、戦後政治の大半を担ってきた自民党という政党の本来あるべき姿だ。派閥単位の多数派工作に狂奔し、党を支える利権集団の利害が優先されるような総裁選となれば、いくらメディアジャックしても、総選挙での厳しい審判は必至だ。

今回こそすべての有権者が国難の中での政治の在り方を真剣に考え、こぞって投票所に足を運ぶことが「国民のための政治改革実現」への唯一の道だ。

(9月17日寄稿)



東京五輪と太平洋島嶼国

理事 小林 泉
大阪学院大学教授
一般社団法人太平洋協会理事長

日本賢人会議所は、東京五輪2020の開催が決定した直後、「南の島の子供たちを五輪に招待するプロジェクト」を作った。自国開催などあり得ない小さな国の子供たちに、世界の国々とつながる機会を提供したいとの思いからだ。

政府やオリ・パラ組織委員会の支援協力も取り付け、募金活動も順調に推移していた。後は、来日した子供たちの身になるプログラムを如何に準備するか、悩ましいけれど楽しい仕事だけが残っていた。ところが、五輪の無観客開催が決まり、一瞬にして全てがなしになってしまった。残念である。

ところで、南の島国にとって、「東京五輪2020」とはなんだったのか？　どのように参加したのか？　メダル争いに参加することもなく、テレビにも映らないので、その結果を知る人も少ない。よってこの機会に、島嶼国の五輪参加状況を紹介しておきたい。次はないかも知れないが、今後のプログラムつくりに参考になることがあるかもしれない。

島嶼国の五輪参加事情

この五輪に参加したのは、13ヵ国・2地域（グアム・米領サモア）の男女94選手。島嶼国の多くは、コロナフリーを保つために空港閉鎖されていたので、特別便を仕立てたり、幾つもの国を経由したりと、選手たちは日本にたどり着くだけでも大変だった。IOCはナウル航空が保有するB737-300をチャーターし、ソロモン諸島から3選手を、ナウル



に集めていたキリバスとツバルの選手5名をミクロネシア連邦のチューク経由で日本まで運んだ。経費も飛行ルートも特別だ。サモアは、豪州や日本に滞在していた男女8名の選

手を派遣したが、国内で練習していた重量挙げ3選手は、コロナ感染への恐れから参加を見送った。2008年の北京大会女子重量挙げで銀を取得した種目だけに、サモア重量挙げ協会にとっては、無念の決断だったろう。

そんなオリンピックとは、島嶼国にとって何なのか？　一国からの参加選手は、いずれも数人に過ぎないことを思えば、「国威発揚のためにメダル獲得」といった動機とは無縁で、もっぱら「参加することに意義がある」スポーツ大会なのだろう。困難な空路事情をも乗り越えた選手たちの来日意義も、そこにある。そんな中、開会式でトンガ選手団（6名）の旗手が纏った腰蓑と上半身裸という民族衣装は、今回も世界中の注目を集め、その存在感は金メダル級だった。

それでも実際の競技になれば、メダル争いに加わることもないから、テレビを見ていても分からぬ。そこで、全選手の参加競技を紹介してみたい。

地域最大の選手団を送り込んだのは、フィジーの33名。その内、27名が男女の7人制ラクビーチームで、男子金、女子銅の快挙を成し遂げた。男子は、正式種目となった2016年リオ五輪でも金。よって、決して参加することだけの意義ではなく、ラクビー王国の面目躍如というところだろう。だが、ラクビー・ワールドカップでは強豪国の一角を占めるパリネシアのトンガやサモアは、惜しくも全体出場枠には残れなかった。この競技だけでなく、チーム種目に参加したのはフィジーだけ。よって、8名を派遣したサモアとパプアニューギニアが、フィジーに次ぐ競技者数だった。

種目別の選手数を見ると、競泳19（男10・女9）、陸上14（男11・女3）、重量挙げ7（男4、女3）、柔道6（男5、女1）、カヌー6（男3、女3）、セーリング6（男4、女2）、ボクシング3（男）、テコンドー2（男1・女1）、卓球2（男1・女1）、ボート1（男）、レスリング1（女）、そして7人制ラクビー男女1チームずつ、以上12種目である。





競泳は、ほぼ満遍なく各国からの参加があった。まわりが海で囲まれているので泳ぎは得意かも知れないが、競泳用プールのある国は少ないので、入賞レベルの泳ぎは難しいのだろう。

周辺大国との交流が活発化した1980年代、ポリネシア、ミクロネシアの国々では、食の西欧化が進んで肥満が大きな社会問題になった。それを解消するために、と進められたのがランニングと重量挙げだ。走るのは何処でもできるし、重いものを持ち上げるには、さしたる道具も必要ないからだ。そこで、重量挙げ種目への参加が多いと思ったが、全体で7名とは、意外な少なさである。それでも、トンガの87キロ級女子が8位入賞を果たしたのは立派だった。

陸上は、サモアから円盤投げ、クック諸島から800m走、ソロモン諸島から女子マラソンが一人ずつで、後は短距離走者ばかりだった。カヌーやボートなら島の人たちには馴染み深と思いきや、これも生活での使用と競技では、質的に違うようだ。

とはいって、私の素人感覚では、島々には身体能力の高い人たちが少なくないように思える。だから、近代競技仕様で訓練すれば、メダル級の競技者が複数出ても不思議ではない。ならば、国際協力の観点から、世界トップクラスのアスリート育成を今後の視野に入れても良いのではないか。こうした試みが人々の関心を呼んで、スポーツ支援の小さな切っ掛けになれば良いのだが。

2020東京オリンピック・パラリンピック(東京五輪)のレガシー(遺産)と日本ソフトボールチームの勲功

理事 尾山重美

千葉県スポーツ協会 スポーツ指導員
八千代市ソフトボール協会 審判員

東京五輪で醸成されたスポーツ文化や無形の遺産をこれからどのように根付かせ、継承・発展させるか、日本ソフトボールチームのオリンピック金メダルの連覇から考察してみたいと思う。

野球の日本上陸は明治4年、ソフトボールは大正10年と言われ、それから計算すると今年はそれぞれ150年目、100年目の節目に当たる。

よって、野球のオリンピック初の金メダルやソフトボールの金メダル連覇は、それぞれに、正に歴史的な遺産とも言える金字塔を打ち立てたことになる。

ソフトボールは万人向きの野球とも言われ、野球の原型がそのまま保存されている競技と言えるが、当初より女性活躍のスポーツとして発展して来ており、現代の女性進出が求められる社会にあっては、この連覇の意義は大きい。

ソフトボールの魅力は、野球の経験者から見て、コンパクトに整備された球場のもと施設・用具類は安全性が担保され、プレイはスピードと俊敏性、選手には多用化の利便性や投・打は時間制限がしっかりとルール化、監督采配の多様性は勿論のこと、選手のメンタリティに左右される心理戦は更なる緊張感を生み出して行く。選手達の一撃手一投足はピンチとチャンスを瞬時に逆転させる可能性を秘め、最後まで何が起こるか分からないスリルと感動はたまらない興奮を醸し出してくれる。

ダイヤモンドの広さは墨間60フィート (18.29m) の正方形で野球の約44%、投手・捕手間の距離は野球より3割程短い。

しかしながら、ボールは野球の硬式ボールより大きくて重い。

投手の投球法は身体に無理の無い下手投げで“ウインドミル投法”がよく採用されているが、球種は下からホップする「ライズボール」が特徴的で球速(体感速度)は時速160Kmに達すると言われる。(アメリカ大リーグの大谷投手の球速に相当する)

先の東京五輪での戦いは、決して安易な試合運びでは無かったと推測する。



メキシコ戦とカナダ戦はタイブレークの8回裏に“さよなら勝利”、決勝の米国戦では一打逆転のピンチを迎えた6回裏にサードとショート（トップ）に超ビッグプレーが飛び出して勝利の女神をグッと引き寄せ、最終回には上野投手自身のこの大会369球目の投球で勝利に導いた。

これらのプレイには、13年間の逆境の中で鍛え抜かれたスキルの深さ、そして勝利への執念が宿り、絶対に負けられない気迫と百戦錬磨の風格さえ感じ取れた。

宇津木麗華監督に於かれては中国国籍から日本に帰化され、苦難の道のりは想像に難くないが、選手たちの嫌なことは自分が全て背負うと言う信念のもと、選手達への様々な批判にはその矢面に立って対応して来たと言われる。

正に誉れ高き闘将であり、勝利の歓喜と上野投手との涙の抱擁の姿は今でも脳裏から離れない。

アスリート達の言葉を借りれば、“進化は逆境とピンチの中から生まれる”と言われるが、今回の連覇は正にそのことが実証された結果と確信する。

水泳の池江璃花子選手も、白血病の公表から2年2ヶ月で五輪代表の権利を掴んでいる。

日本ソフトボール機構は今年の4月に、“2022年からプロ化ではなく企業のスポーツとして地域密着型の新リーグに移行する”との方向を発表している。

（日本経済新聞4月22日報道）

地域を代表する選抜高校野球は男女共に、“甲子園”と言う憧れの舞台が整えられているが、高校ソフトボールについても同様の舞台が日本のどこかに設定されていくことを期待したいと思う。

東京五輪のアスリート達は全員がヒーローであり、国の誇りであると同時にあらゆる社会に与える影響は大きい。

特に、子供達にとっては憧れの存在であり、彼等の未来像に貢献していく役割は極めて大きいと思われる。

経済協力開発機構（OECD）は、2030年の国際社会の子供達学力形成を“生き延びる力”と定義し、その3つの柱は、1. 新しい価値を創造する力、2. 対立やジレンマを克服する力、3. 責任ある行動をとる力、としている。

外国のアスリート達は、「ノブレス・オブリージュ（Noblesse Oblige）」と言われる社会貢献活動が通念と言われ、日本でも東京五輪の“スポーツの力が世界を変える”と言う取り組みのSDGs

(Sustainable Development Goals) に合わせ、推進の嚆矢となることを期待したいと思う。

今回の東京オリ・パラの開催は未曽有のコロナパンデミックと闘いながら、一年の延期と無観客の開催となつたが、その開催の意義を3つ挙げるとすれば、

205の国と地域から、11,000人以上が東京に集い、恭敬のコミュニケーションと最高・最強のパフォーマンスや感動が全世界に発信された。

オリンピックは世界の“唯一無二”的大会であり、日本は開催国としての責任と義務を果たし、次の開催国フランスに無事繋げることが出来た。

人類は、“考える力と知恵”で如何なる障害も乗り越え、進化出来ることが証明され、多様性と調和、そして生き延びる力、仲間の力、地球の力を次代を担う若者達と共に出来た。

日本賢人会議所では、「南の島の青少年を東京五輪へ招待」のプロジェクトが発足し、その取り組みがスタートしていたが、コロナ感染の影響や無観客の決定で已む無く中止になってしまった。世代を繋ぎ国境を越えて社会に貢献していく取り組みは、これからも引き続き継続される重要なテーマになっていくと思われる。

東京五輪のメダルは、日本の象徴である富士山の頂上に燐然と輝きを見せるが、雄大な曲線美の裾野には全国民の応援歌と渾身の数々の汗、そして様々なパッションとレガシーがぎっしり詰まっていることを忘れてはならない。

「引用資料」

日本経済新聞、スポーツ報知/報知新聞社
SportJapan (JSPO) (日本スポーツ協会情報誌)
2021年度オフィシャルソフトボールルール



写真：八千代市高貝昇五審判長（左）と共に

新会員から

郡 成憲

株式会社万葉しきや会長
万葉きもの教室主宰

日本のきもの文化の伝統である技術の継承と需要の拡大の為に、志を持つ私達が、一般社団法人日本きもの文化伝承機構を立ち上げる為に、吉田法子様のご紹介で、小早川明徳様に、今、ご指導を仰いでおります。その中で、国内外の為にと活動されておられる日本賢人会議所を知りました。感動しましたと同時に何か少しでも、お役に立つ事が出来ましたと、入会をお願い致しました。どうぞ今後共、ご指導下さいますよう、よろしくお願ひ申し上げます。



因泥 友子

株式会社トラベルアライアンス代表取締役

昨年入会した新会員の因泥（いんでい）友子と申します。日本賢人会議所に入会して、まだ右も左も分からぬ若輩者の私が、会報でご挨拶の機会を頂戴し大変有難く思います。

私の仕事は、アメリカのクルーズ客船の日本代理店をしております。簡単に言うと、例えば地中海バルセロナから乗船してローマまで7泊のクルーズ旅行の手配です。船は夜の間に移動するので、毎朝目を覚ますと違う寄港地が迎えてくれます。一度お部屋に荷物を入れると、観光する時には小さなバック1つで出かけられるので、とても楽に観光出来ます。

船旅は時間を上手に使え体も楽な旅なのです。

さて、ある日の母との会話からの気づきをご紹介させて頂きます。

私は母に、誕生日はクルーズをプレゼントするので

どこへ行きたいのか聞きました。すると母から、「クルーズはいらないから井戸がほしい」と思いも寄らない返答が来たのです。私の頭の中は真っ白になり、お水が出る井戸とリンクせずにボケつをしていると、母は「すい臓癌で入院していた時から考えていたのだけど、人間は水と太陽があれば生きていけるから井戸が必要なの。井戸があれば家庭菜園で作った野菜にお水をあげて食べて行けるし、地震などの災害はいつ来るか分からないので、断水した時を考えると井戸が1つあると地域のみんなが助かると思うよね。」東北の大震災の時も、被害はなかったとはいえ断水や電気、ガスが何日か止まったので、水が一番大事だと痛感したそうです。実家は茨城県の田舎にありますが、近年は残念ながら近所の井戸は潰されていく事が多いため、なるほど深い課題だなと思いました。貴重な意見を生かし、地元に戻ったら地方自事体に働きかけて、生涯を通して井戸を中心とした、災害に強い循環型コミュニティ作りを提案して行けたらと考えた次第です。

さて人生100年、賢人会議所は、“支えられる側から支える立場になって”、新たに見えてきた課題を解決すべく取り組みが発信できる場であると思います。

コロナで、日常でもご家庭や仕事でも、不自由でストレスが溜まる日々が続き、先が見えない不安な毎日が続いているが、コロナ渦だからこそ、普段気が付かなかつた事や見えてきた課題が沢山あると思います。一方コロナを体験した事により一気にIT化が進み、一堂に会せなくともZoomを使って、お互いに顔を見ながら意見を交換する事も出来る様になっています。

賢人会議所の諸先輩方のお力を拝借しながら、例えばですが、ホームページの会員ページを使用しての意見交換や、zoomを活用しての意見交換やセミナー開催などで、新人会員が賢人会議所の内容を深く理解し、少しでも社会に貢献できるような仕組みを構築できたらと切に願っております。本来であれば直接お目にかかるお話を伺いたいところですが、コロナは冬に向けて長引きそうなので、出来る事から始めて行けたらと思います。



会員訪問

会員ニュース

塗間佐千子さん（横浜市鶴見区在住）

コロナ禍の影響で長きにわたり月曜セミナーや各種事業が止まっている日本賢人会議所ですが、会員のお一人に近況を伺いました。

Q：コロナで制約の多い日々ですが、いかがお過ごしですか？

A：東京に出向く機会は減りましたが、運動のためにも車をやめて、歩くか電車・バスを利用して、主に市内のいろいろな場所を訪ね、身近にありながらこれまで気付かなかつたことを発見しています。著名な観光スポットでなくとも、ちょっとした歴史や地域の風土を垣間見ることがあり、興味深いですね。

Q：その結果として、暮らしは変わりましたか？

A：大きくは変わりませんが、自宅の近くに「もうおか里山俱楽部」という空き家を利用したコミュニティ活動の拠点を見つけ立ち寄ったことで、俱楽部のカフェをお手伝いすることになりました。予約制で提供するランチの食材集めや調理です。主婦としては長年の経験がありますが、お金を頂く立場になるとコストも栄養バランスも見栄えもと、毎回思った以上に悩み、プレッシャーにも感じています。

Q：大変ですね。続けられそうですか？

A：しばらく続けたいと思います。僅かですがお給金も出て、半世紀ぶりに働くことの責任と緊張感を味わっています。また、地域の方々と新しいコミュニケーションが生まれることは、とても有り難い、嬉しいことですね。不自由なコロナ禍ですが、小さいながら社会や人との関わりを大切にしたいと思っています。



聞き手：小林
正博



小早川理事長が令和3年度外務大臣賞を受賞

9月中旬、新聞各紙は長年にわたり国際協力機構（JICA）の青年海外協力隊事業を支援するなど、国際交流に尽力したとして、一般社団法人・地域企業連合会九州連携機構の会長でもある当会小早川明徳理事長が、今年度の外務大臣賞を受賞したことを報じました。

小早川理事長は、九州での青年海外協力隊事業の支援などを通じて多くの人に国際協力への関心を広げ、帰国した隊員の就職支援にも取り組むとともに、マレーシア協会やブルネイ協会を設立し、各国を紹介するイベントを開催するなど、30年以上にわたり、国際交流の促進や友好親善活動を続けてきたと伝えています。

第30周年キシコ国際交流音楽会
youtube配信中！

NPO法人ワールドジェクト音楽交流協会理事長を務める川口希史子理事は、1991年の開始から30周年を迎えるキシコ国際交流音楽会を9月26日日曜日東京渋谷ホールで開催しました。

インドネシア、中国、日本の民族舞踊、伝統楽器、歌曲の競演をコロナ禍対策もありyoutubeで配信しています。なお、これまでキシコ国際交流音楽会のチケット収入は「南の島の子供達を東京2020に招待するプロジェクト」の基金としても提供されて参りました。

次のURLか、「第30周年キシコ国際交流音楽会」と検索して、是非ご覧ください。

<https://youtu.be/1dBCixEBW2E>



short essay

二拠点生活で見えてきたもの

理事 渡辺仁史
早稲田大学名誉教授

結婚してすぐに発病した家内の最後の転地療養地として、2000年に選んだのが沖縄県石垣島でした。その後、亡くなるまでのほぼ10年は一年の1/4を、そしてその後の10年は一年のほぼ半分を石垣島で過ごしてきたのですが、東京と石垣島という二つの生活拠点を持ったことで、振り返ってみると自分の生き方や考え方方が大きく変わっていることに気がつきました。

それは、宇宙のありとあらゆる事物をさまざまな観点から陰と陽の二つのカテゴリに分類する考え方である「陰陽」と、二拠点での暮らしとがよく一致しています。



この対局に見えるカテゴリーを一瞬にしてリセットしてくれるのが、拠点間の移動です。それが一年に約5回、東京と石垣島とを往復していると、空港に降りた途端にそれまでの生活で順応していた暮らし



方が、あっという間にリセットされるのです。それぞれに住み慣れた場所なのに、その都度、まるで新しい場所に来たかのように新鮮な感覚で全てのものが見えたり聴こえたりします。

石垣島で2ヶ月ほど暮らしていると環境への順化が起きるのですが、一旦東京に戻り、しばらくして再び島を訪れるとき、先のリセットが起きるのです。野の花の美しさに感動し、島野菜の力強さに打たれるなど、その度に新鮮な感覚が蘇るのですが、二拠点居住で得られる最大のメリットは、このワクワク感ではないかと思っています。

石垣島の良さは、これ以外にもたくさんあります。島野菜、島人、島時間などなど、離島ならではの独特的な生活素材や人間関係があり、自然に囲まれてその環境と共生しながら生きて行く暮らし方の再発見が、若い時よりも生き生きと賢く生活できているような気がします。

もちろん、その逆もあって、2ヶ月後に今度は羽田空港に降り立った時、人工的な美しさに惹かれ、デパ地下が新鮮に感じるのです。多拠点の魅力もあると思いますが、まずは二つの拠点を持つことが、これからニューノーマルになるような気がしています。



第16回理事会報告

令和3年9月29日(水) 令和3年初となる第16回理事会が学士会館で開催され、次の通り今期事業計画、収支予算および前期事業報告、決算報告、定款の改定が審議されました。

その結果として、「地球環境問題」および「働き方改革」について新たに取り組むことになりました。(本会報「小早川理事長から呼びかけ」ご参照)

審議事項

- 1) 令和3年度事業計画案及び収支予算案の承認
- 2) 令和2年度事業報告書案及び決算報告書案の承認並びに監査報告
- 3) 定款の変更(理事会の決議の省略)
- 4) 理事の選任
- 5) 第7回定期総会の招集
- 6) 新規入会申込者の承認

報告事項

- 1) コンプライアンス委員会報告
- 2) 業務執行理事の報告
- 3) その他

日本賢人会議所連絡先

〒108-0023 東京都港区芝浦1-13-10 第3東運ビル4F
TEL : 03-6809-4950
FAX : 03-6809-4951
E-mail : info@nipponkenjin.com
HP : <https://www.nipponkenjin.com/>
FB : <https://www.facebook.com/smart.senior.council/>

フェースブック・グループへのお誘い

理事長 小早川明徳

“メンバーへの強いメッセージを”とのご要望をいただいていましたが、そのメッセージがわりに、会員の皆様の愁眉が晴れるように何かできないかと考えて一つご提案します。

過去の活動へページをめくりまして、フェースブックのこの会員サイト「日本賢人会議所会員用ページ」を見つけました。あの当時の皆様の生き生きとしたお姿に、このサイトの再開とご登録をお勧めすることが、皆様の連帯感や情報共有に意義があり、このコロナ災禍において極めて有効な手段だと考えました。

如何でしょうか。「いや、メールは苦手だ。」という方もいらっしゃるとは存じますが、長寿社会において、まずは“つながる”ことが社会生活の中で極めて重要なことだと思います。ちなみに、このサイトは、当時広報委員会で開設いただき、現在小林事務局長が管理人となられているので一層好都合だと思いました。如何でしょうか。



フェイスブック会員用ページより：秩父・三峯神社ツアー集合写真

事務局追記：小早川理事長提案の通り、フェースブックをお使いの会員のメンバー登録を歓迎いたしますので、お気軽に事務局までご一報ください。